



＝目次＝

特集 新しい村づくりのために

■熊本県の農業構造改善事業は

どう進められているか10

□企業的農業経営に挑む14

□農業構造改善と土地基盤整備15

□新養蚕地帯のめばえ16

□進む果樹産地の近代化28

□野菜の経営改善へ30

□大型草地酪農への夢も32

□生産拡大で農業所得の増大へ(米部門).....36

<論説>

熊本県農業のビジョン

都留大治郎.....26

☆新しい農業者が育っている34

ルポ

1. 城南町ふたば会 2. 天明村若竹会

3. 小川町の生活改善グループ

■ここに人あり マイクにかける青春25

★ざいそう★

田代 順七・光恒安津子・倉林喜一郎

竹田 斉

★グラビアページ

特集一生まれかわる農村・新産業風土記ほか

★センターカラー



上・「ミルクの濃度はこうやって……」組合の作業場で。



上・組合員の家畜の様子を調べるMさん。



上・近代酪農は機械にも強くならねば……今日はトラクターの実習。



上・「兄弟と同じ気持……」で経営の診断や指導も。

畑地酪農と取り組む

菊池郡泗水町大字吉富(富原)。大型機械を利用した畑地酪農のモデルとして、県内外はもとより、東南アジアなど海外からの視察も多い。しかし、これまでに富原酪農組合の九人のメンバーと普及員が手をとりあつての努力があった。

昭和三十六年度、泗水町は国の機械化実験集落事業の指定を受けた。農家が実際に生産していく場で、大型機械に適応した農法を総合的に検討し、説明しようという狙いをもつこの事業の中で、富原集落は目標を酪農経営の確立においた。